



文部科学省の平成 14 年度科学研究費補助金「基盤研究(CⅩ1)農山村における内発的発展と環境保全」(代表者:大野晃北見工業大学教授)の分担者として、平成 14 年 8 月 19 日より 10 月 9 日まで、ルーマニアとイタリアにおいて調査を行った。

本調査は、平成 11 年度から 13 年度の科学研究費補助金「基盤研究(CⅩ1)条件不利地域における環境保全と過疎問題」(代表者:吉澤四郎中央大学教授)研究の継続でもある。ルーマニアでは、3 年前と同じ調査地、北部スチャバ県ヤコベニ村チョコカネシュスティ集落で、村役場の全面的協力の下、30 戸の農家に個別アンケート調査を行った。前回、村の自主的地域活性化集団と地域住民(村民)への基礎的な聴き取り調査を行っており、今回は農家の全体像把握と EU 条件不利地域対策への意向調査を主眼に置いた。大学の研究者との連携でも、今回はブカレスト大学、今回はスチャバ大学の経済・社会学関係研究者から、調査票の翻訳、通訳等に多大な協力を得た。特にチョコカネシュティとの比較のため、バラン教授推薦の県内別の集落での役場、農家の聴き取りも行った。

前回調査では、農村選定のため 2 県 2 村の調査を行い、農業環境省では前政権下の EU 担当大臣から 2 日間にわたる聴き取り調査が行えたため、他の機関調査を行う時間がなかった。そこで今回は、ルーマニアの地域開発に関与している国際機関、世界銀行、EU、UNDP、USAID、JICA、ルーマニアの農業開発・普及担当機関 ANCA 等の機関と、その計画実行地域で聴き取り調査を行った。

近年、EU の地域開発において、大きな成果をあげている LEADER (Liaison Entre Actions de Developpement de l'Economie

Rurale, 農村経済開発事業間の連絡)は、現在、3 回目の計画が実施段階にある。EU の農村開発、条件不利地域対策等に関して、わが国での情報はフランス、ドイツ、イギリス等に偏りがちである。LEADER 発祥の地フランスを除く、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、スペイン、イタリアの各国の研究者による共通農村開発調査結果をみると、各国四つの調査対象が選定され、イタリアの調査対象地はすべて LEADER 実施地域である。すなわち、イタリアでは、LEADER の地域開発における位置付けが高いと言えよう<sup>(注)</sup>。

イタリアは、地域開発において、山岳地域等、自然的条件不利地域に加え、社会・経済的に条件不利な南部問題も抱えている。これは、日本の中山間地域や日本の南部問題とも言える沖縄の地域開発を考える上で調査に値する。このような理由から、イタリアの南部カラブリア地方のヴァッレ・デッレ・クロッキオと、北部ピエモンテ地方のヴァッレ・デル・ペリチェの二つの地域で、関連機関・組織を中心に、一部農家・林家調査を行った。南部では現地の LEADER の全面的な協力と、北部では山岳共同体、LEADER 実行主体の全面的協力を得た。これら研究成果は、今夏のヨーロッパ農村社会学会で報告する予定であり、『技術と普及』(トレンド 2002, 2002 年 12 月号 (Vol. 39)), 『日本農業新聞』(中国・四国版「コラム 鉄」2002. 10. 19), 鹿児島県農業農村振興協会『緑地』(提言)No.177, 2003 年 4 月号)等の筆者のコラムでも触れている。

注・今夏開催予定のヨーロッパ農村社会学会でも、イタリア研究者の農村開発関係報告は LEADER がほとんどである。



スチャバ県での農家聴き取り調査(右から 2 番目が著者)